

領域;看護部

医療シーズ;ルート採血時に直接容器を接続できる道具



医療シーズ提案部門
滋賀医科大学 附属病院 看護部

「採血を簡単にしたい」

■看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>

■ニーズの背景

- ・ルート採血ではまず留置針を設置し採血を行ってから点滴をつないでいる。留置針を刺した状態で採血をすると血液がこぼれたり、採取した血液を検体容器に移し替える必要があり、簡便で無いだけでなく感染予防の観点からも問題である。
- ・簡易かつ安全にルート採血を行なうためにも留置針と検体容器(スピッツ)を直接つなぐことのできるような器具が望まれる。

■現在の対応方法

- ・ルートから採血後、検体容器に移し替えている

【イメージ・参考例】現状の真空採血管と留置針



機能アイデア例

- ・ルートから直接採血できる機能(構造、形状)
- ・簡便で安全なもの
- ・通常採血と同様な手技が可能な機能

■使用頻度や市場性(マーケットサイズ)に関する情報

- ・真空採血管市場概要
市場動向: 2015度9億6,568万本・118億60百万円市場
(2016年矢野経済研究所レポート)

お問合せ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携係

電話: 077-548-2847

メール: hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp